

鏡野町総合計画策定のための基礎調査報告書

令和7年6月
鏡野町

目 次

1 人口・世帯.....	3
2 人口流動.....	8
3 健康・福祉.....	11
4 子ども・子育て.....	14
5 産業.....	16
6 生活環境.....	23
7 財政.....	26

1 人口・世帯

(1) 総人口の推移

総人口は近隣自治体と同様、年々、減少しています。うち、年少人口、生産年齢人口ともに減少傾向ですが、老年人口は4,600人前後と、ほぼ横ばいで推移しています。

人口割合では、年少人口が微減で生産年齢人口は大きく減少しています。老年人口は増加傾向となっていますが、近隣の真庭市、美咲町、久米南町ではそれ以上の高齢化の状況がみられます。

【年齢3区分人口の推移】



資料:国勢調査

【年齢3区分人口割合の推移】



資料:国勢調査

【年齢区分の比較(R2)】

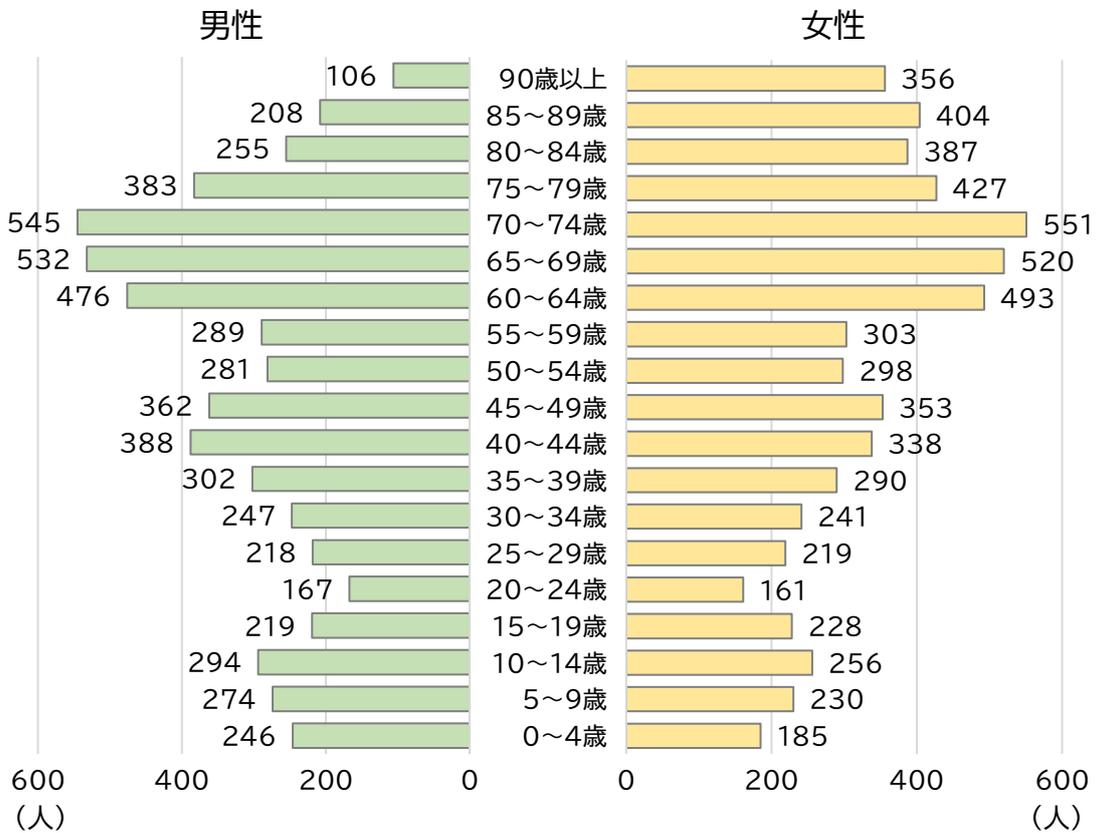


資料: 令和2年国勢調査

(2) 人口構造

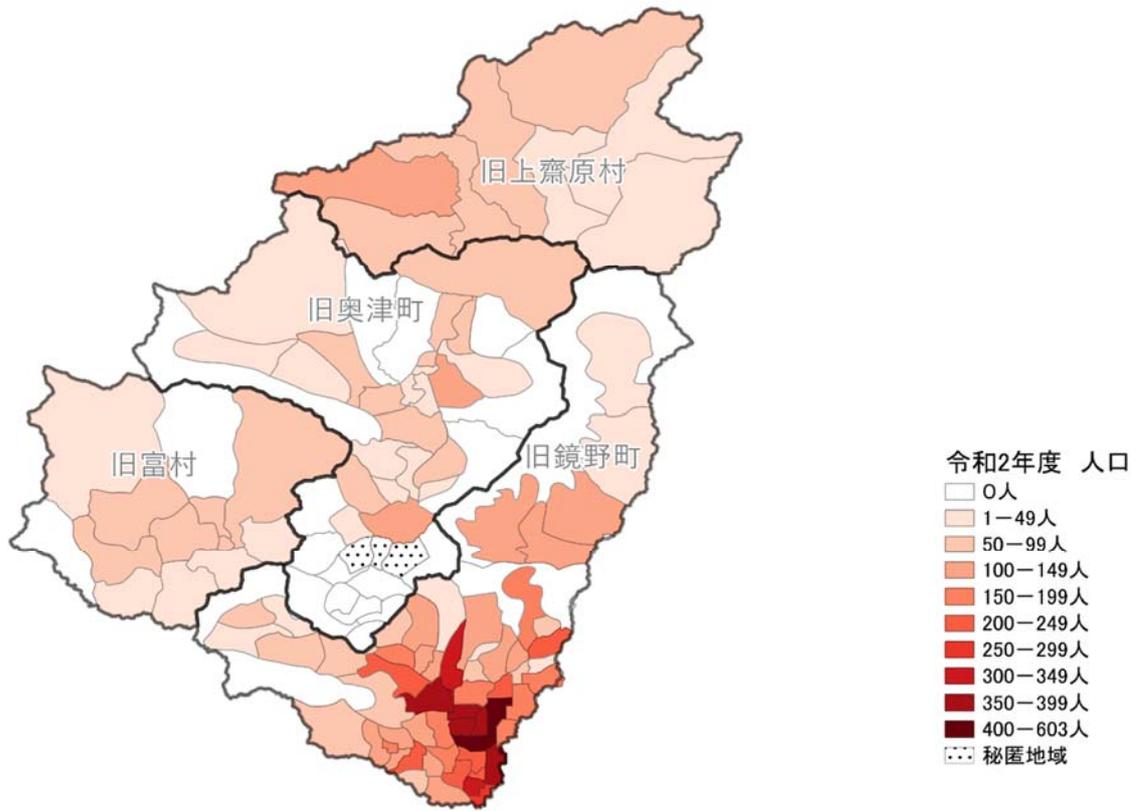
本町の男女別5歳階級別人口をみると、男女ともに60~74歳の人口が特に多くなっています。男性に比べて、女性は80歳以上の人口が多くなっています。

【人口ピラミッド(R2)】



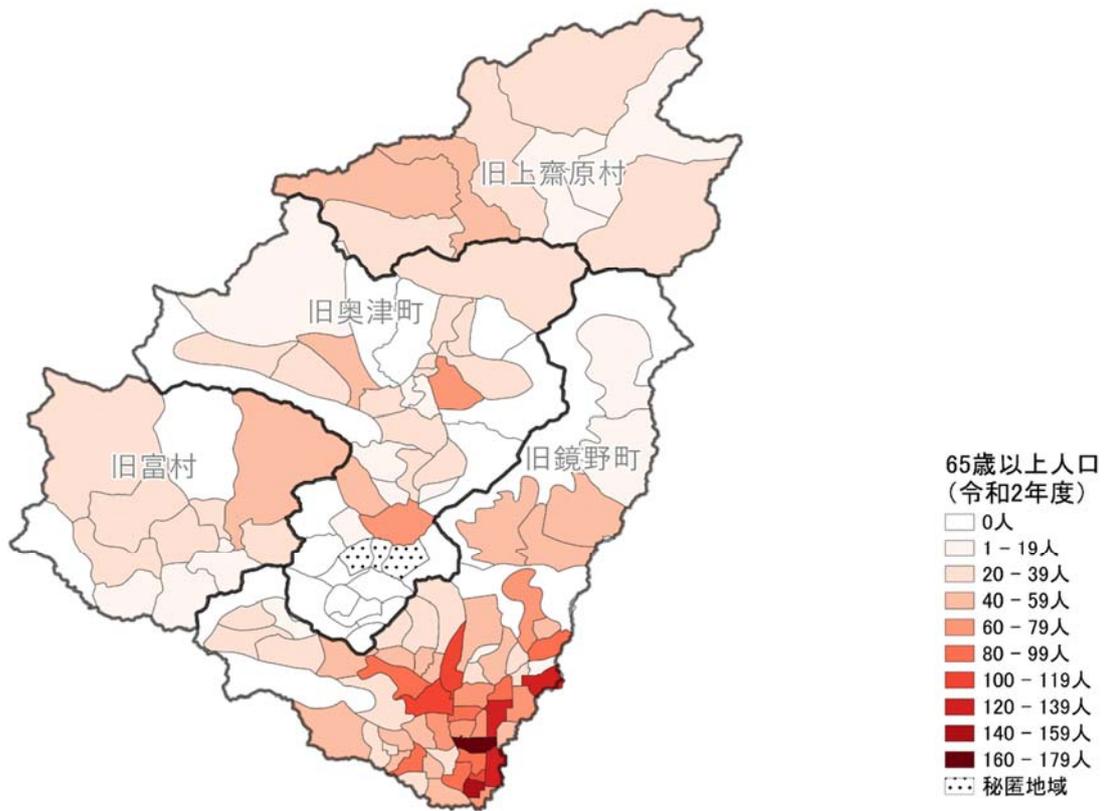
資料: 令和2年国勢調査

【地区別人口の状況】

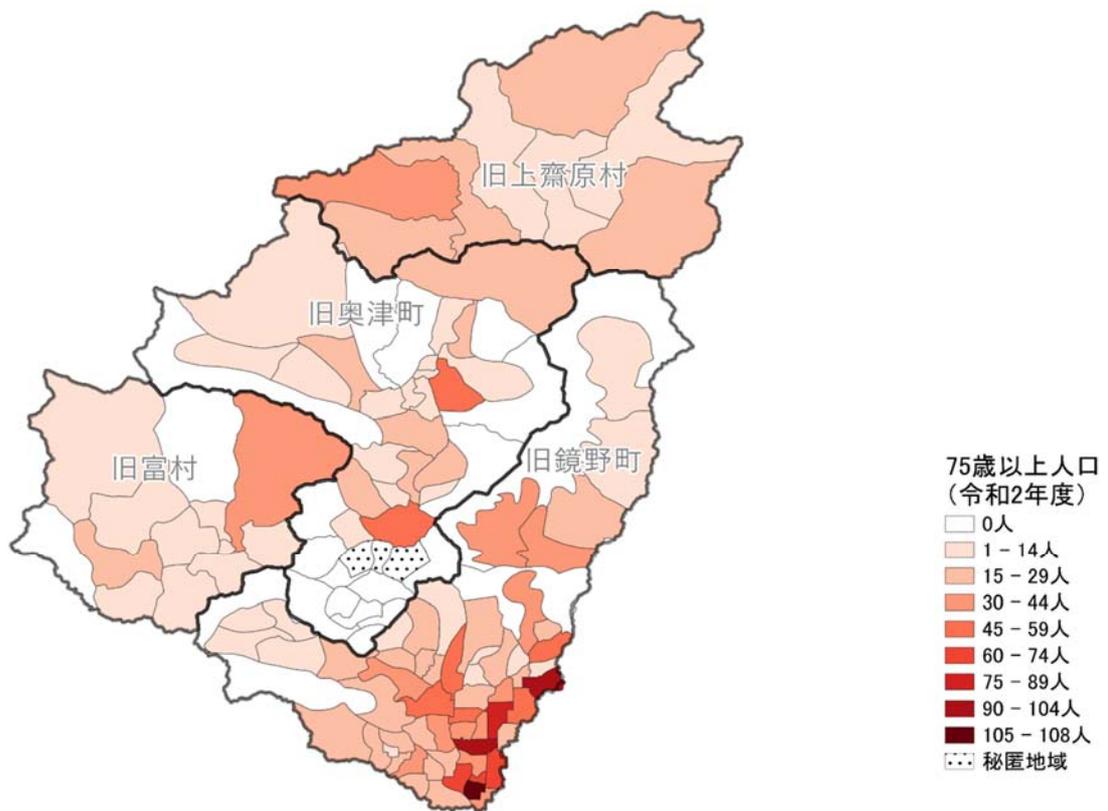


資料：令和2年国勢調査

【65歳人口の地区別状況】



【75歳人口の地区別状況】



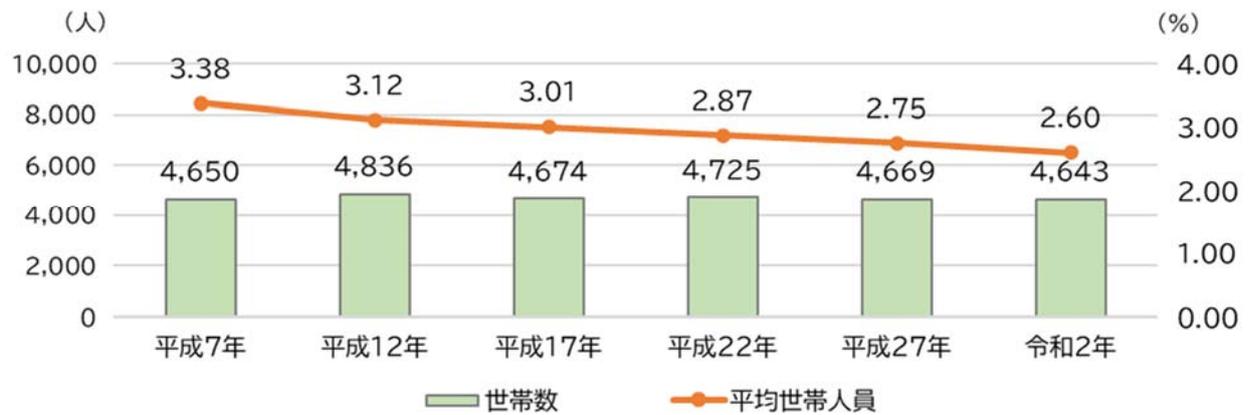
資料: 令和2年国勢調査

(3) 世帯の推移

本町の世帯数をみると、平成12年をピークに減少傾向となっています。

平均世帯人員は平成7年に3.38人でしたが、令和2年には2.60人となっており、核家族化が進んでいます。

【世帯数、世帯人員の推移】



資料:国勢調査

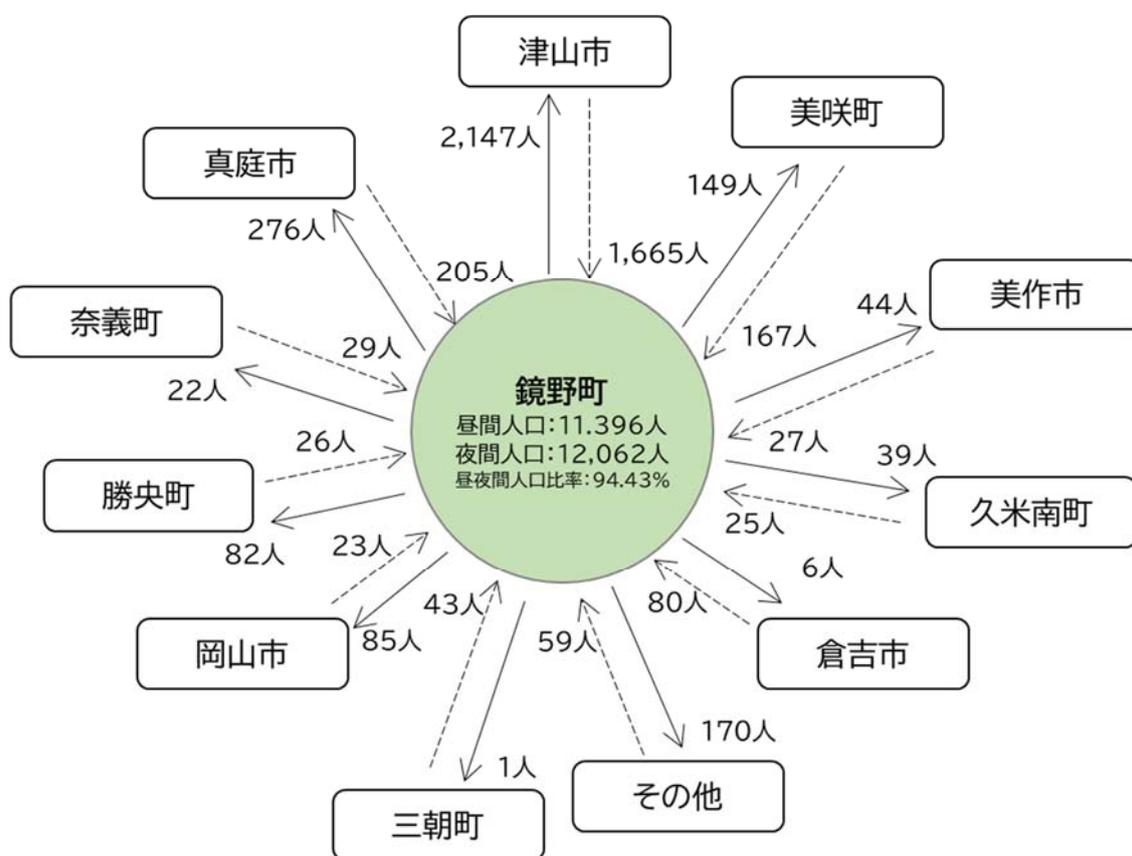
2 人口流動

(1) 就業者、通学者の流出・流入状況

流出人口、流入人口が最も多いのはともに津山市で、それぞれ2,147人、1,665人となっています。次いで真庭市、美咲町の順となっており、隣接する3市町との結びつきが双方向で強いことがうかがえます。

また、鳥取県側の倉吉市と三朝町からの流入人口は、流出人口を大きく上回っています。逆に、岡山市、美作市、勝央町は、流出人口が流入人口より多くなっています。

【就業者・通学者の流出・流入の状況】



資料: 令和2年国勢調査

(2) 人口動態

本町の死亡数、出生数は、ともに増減を繰り返しながら推移し、自然増減は死亡数が出生数を上回る自然減で、近年は減少幅が微減となっています。

転入数、転出数も、ともに増減を繰り返しながら推移し、令和3年、令和4年に一時、社会増に転じましたが、令和5年は社会減に戻りました。

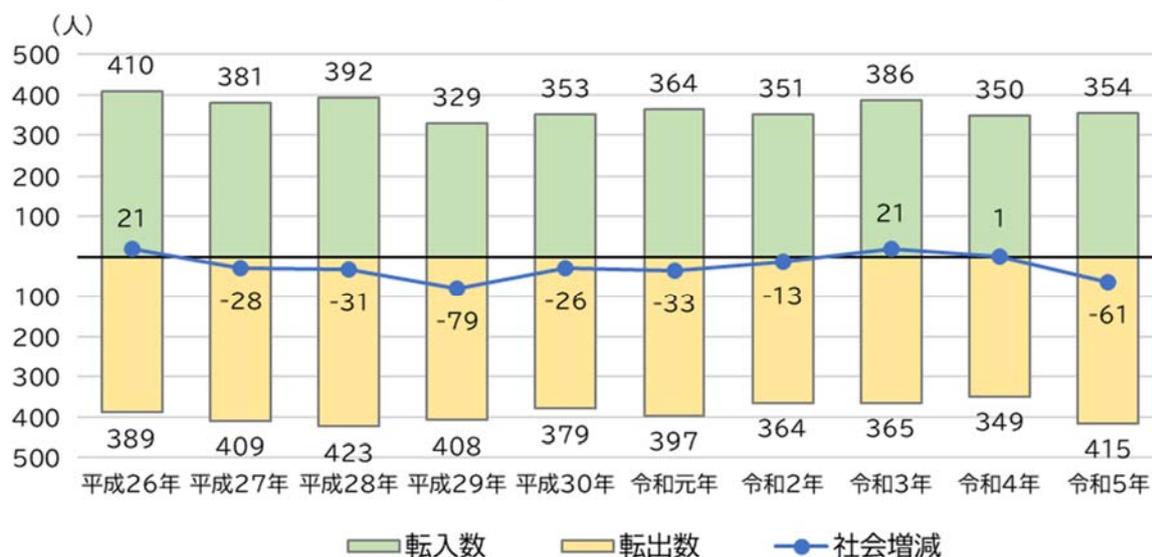
本町からの転出先、本町への転入元の自治体をみると、津山市が群を抜いて多く、令和元年～令和5年の5年間をみると、令和2年を除いて転入超過となっています。また、真庭市との関係も転入超過ですが、岡山市、倉敷市へは転出超過となっています。

【出生数・死亡数の推移】



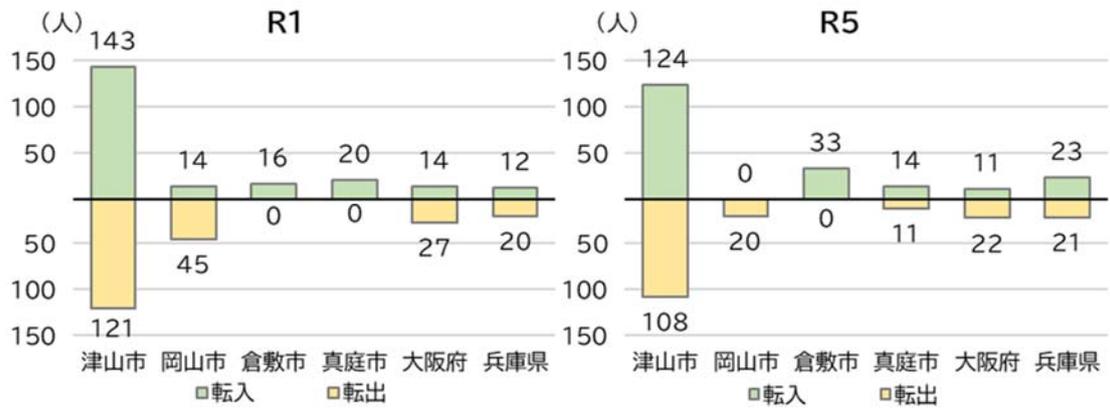
資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【転入出数の推移】



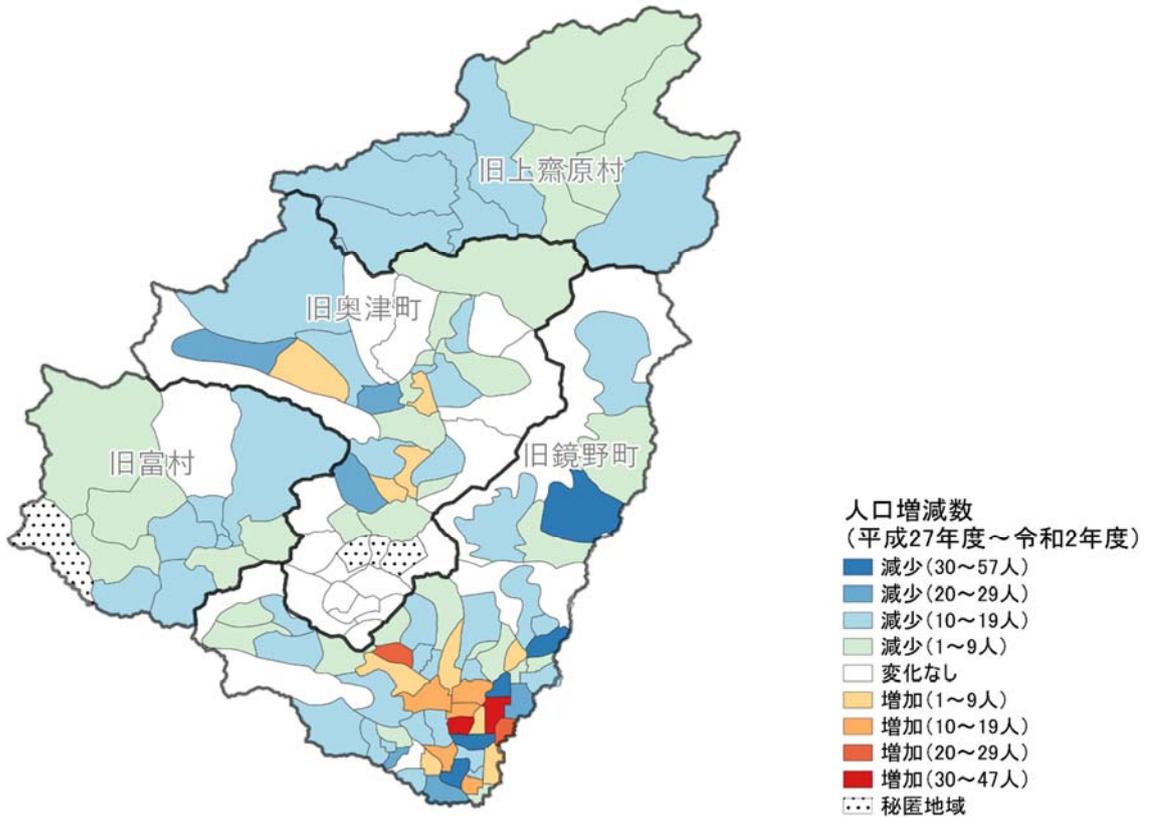
資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

【主な転入元、転出先の状況】



資料:総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【地区別人口増減の状況】



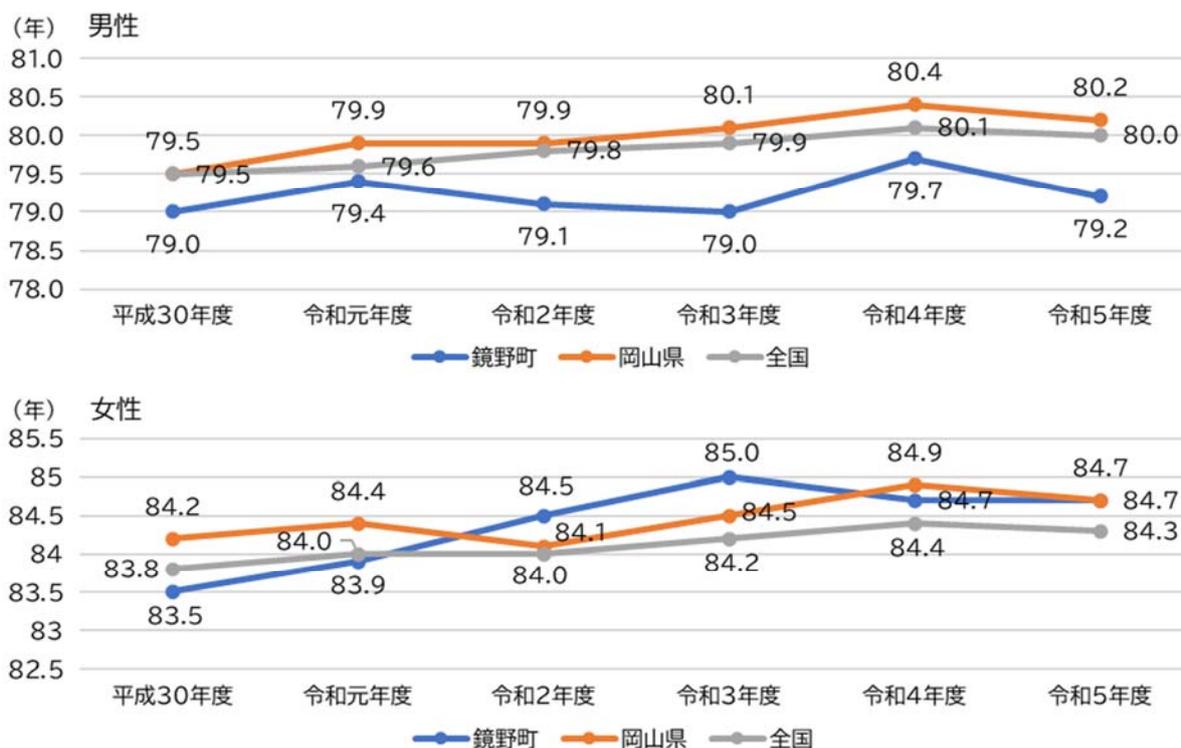
資料:国勢調査

3 健康・福祉

(1) 死亡

男性の健康寿命は全国、県に比べて低い値で推移しています。女性も平成30年時点では全国、県に比べて低かったものの、令和5年には、全国よりも高く、県と同じ値となっています。

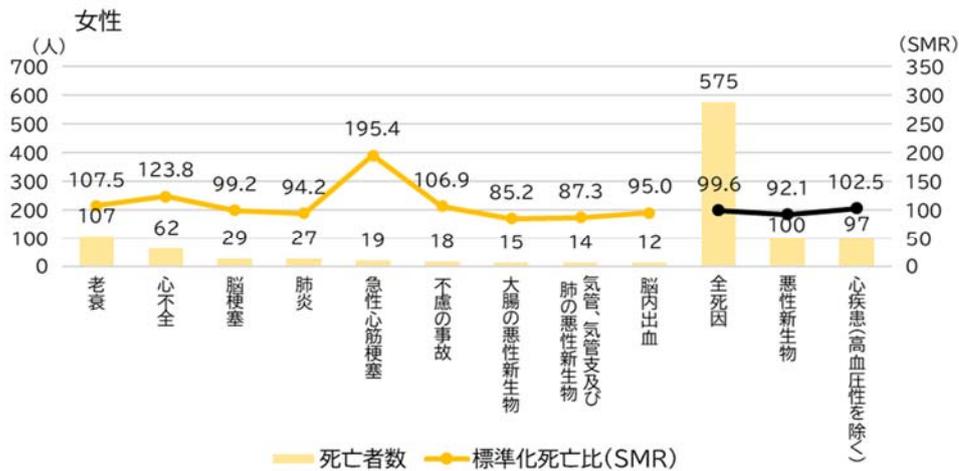
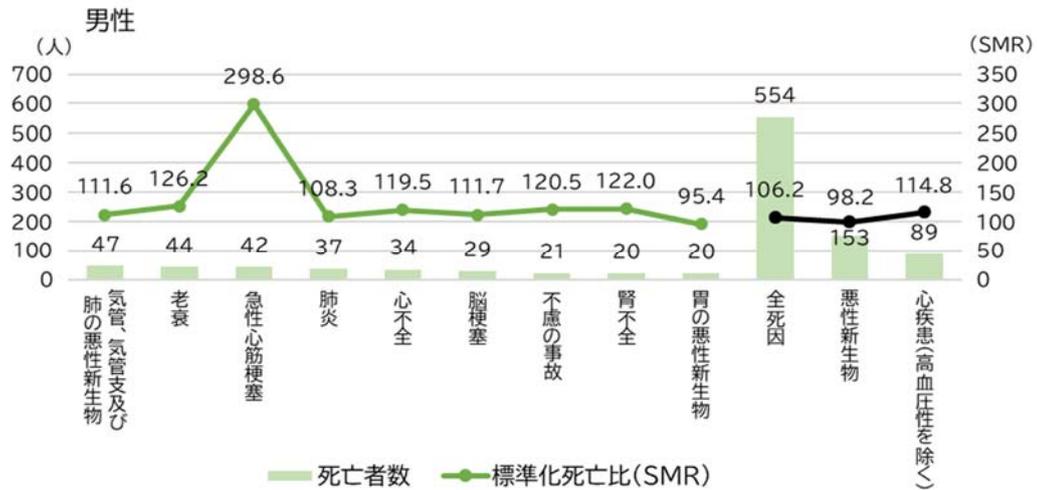
【健康寿命の状況】



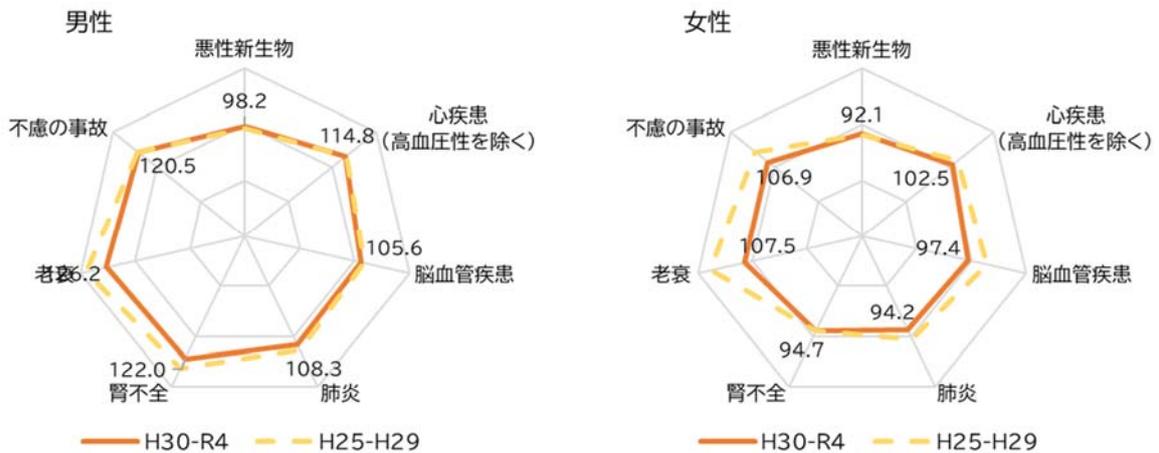
資料:国保データベース(KDB)システム

標準化死亡比（SMR）をみると、全国に比べて急性心筋梗塞が大きく上回っています。また、過去の標準化死亡比と比較すると、全体的に減少している傾向がみられます。

【性別上位の死因別標準化死亡比】



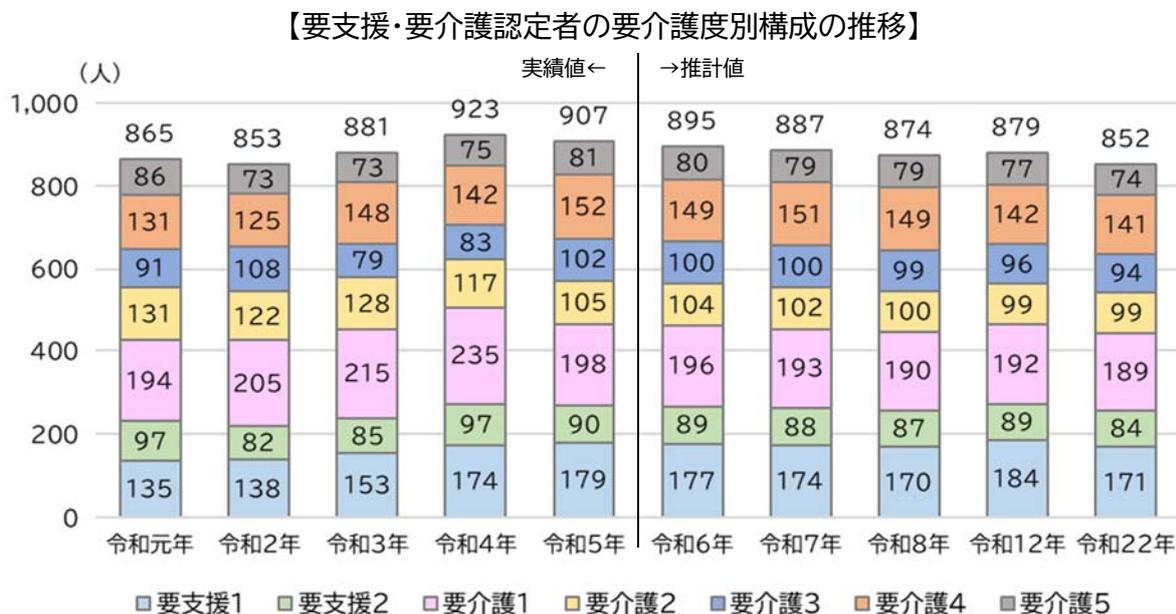
【標準化死亡比の変化】



資料：人口動態保健所・市区町村別統計

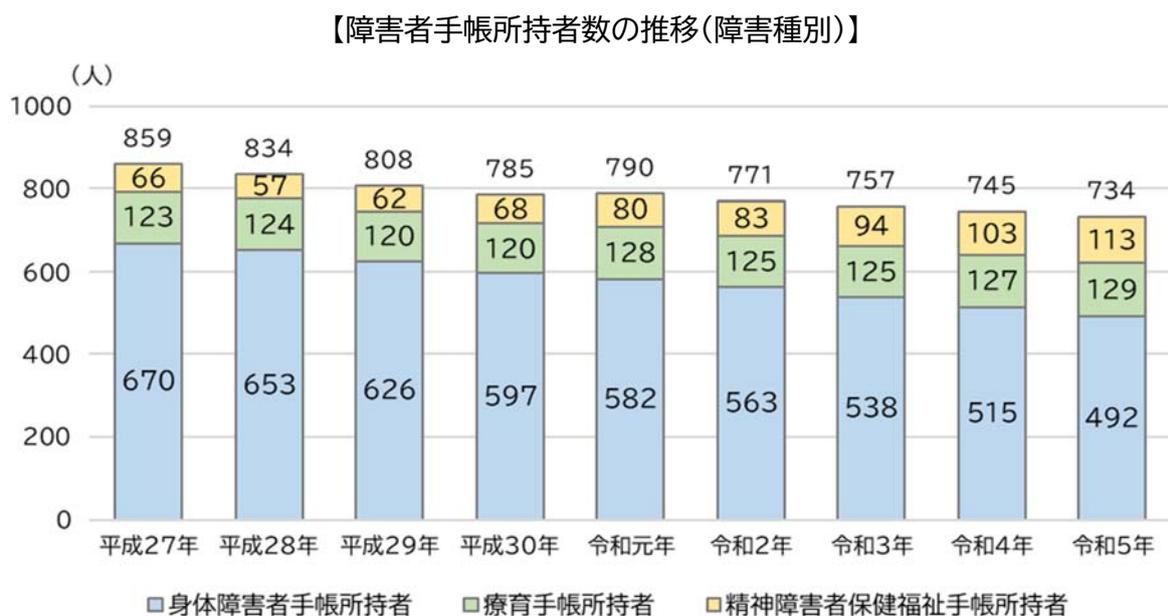
(2) 要支援・要介護認定者数の推移

本町の要支援・要介護認定者数は、令和4年から令和5年にかけて減少に転じました。令和6年以降の推計値では微減傾向が予想されています。



(3) 障害者手帳所持者数の推移

本町の障害者手帳所持者数は、令和5年では734人となっています。障害種別で見ると、身体障害者手帳所持者数は減少していますが、精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向で推移しています。



4 子ども・子育て

(1) 合計特殊出生率

合計特殊出生率は平成27年以降国・県と比較して高い数値で推移しており、国・県が減少傾向なことに対して、本町では横ばい傾向となっています。令和5年は1.98となっています。

【合計特殊出生率の推移】



資料:岡山県衛生統計年報

(2) 保育園・幼稚園の園児の状況

保育園児数は400人前後で推移しており、近年減少傾向にあります。

幼稚園児数は減少傾向で推移しており、令和6年度は12人と、定員70人を大きく下回っています。

【園児数の推移】

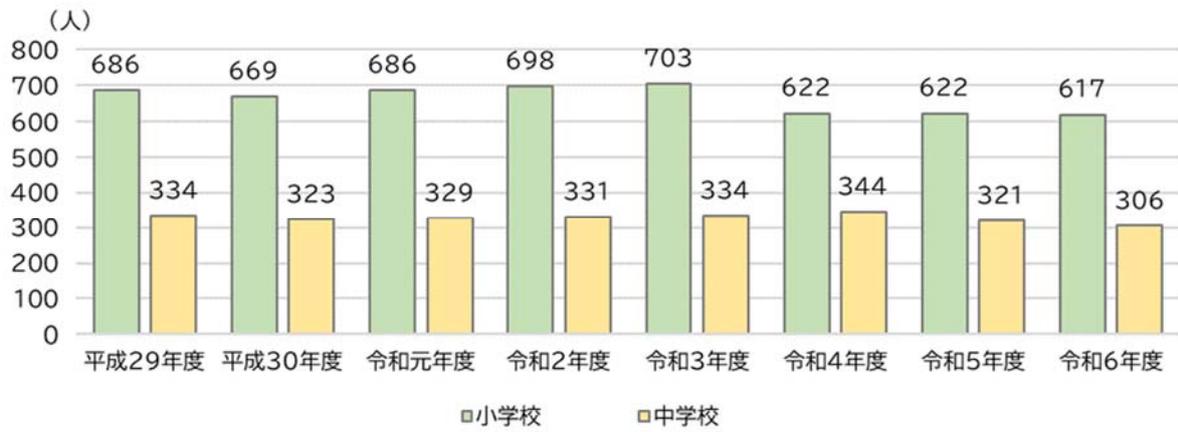


資料:学校基本調査

(3) 小学校・中学校の児童・生徒の状況

小学校・中学校の児童・生徒数は増減を繰り返していましたが、小学校では令和4年度以降、中学校では令和5年度以降、減少傾向となっています。

【児童・生徒数の推移】



資料:学校基本調査

5 産業

(1) 産業構造

就業者数の推移をみると減少傾向で推移しており、令和2年には5,872人となっており、全体として減少傾向がみられます。

総生産額は令和元年度から減少傾向にあります。町民所得も減少傾向がみられますが、令和2年に減少し、令和3年に増加していることから、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたものと考えられます。

【産業区分別就業者数の推移】



資料：国勢調査

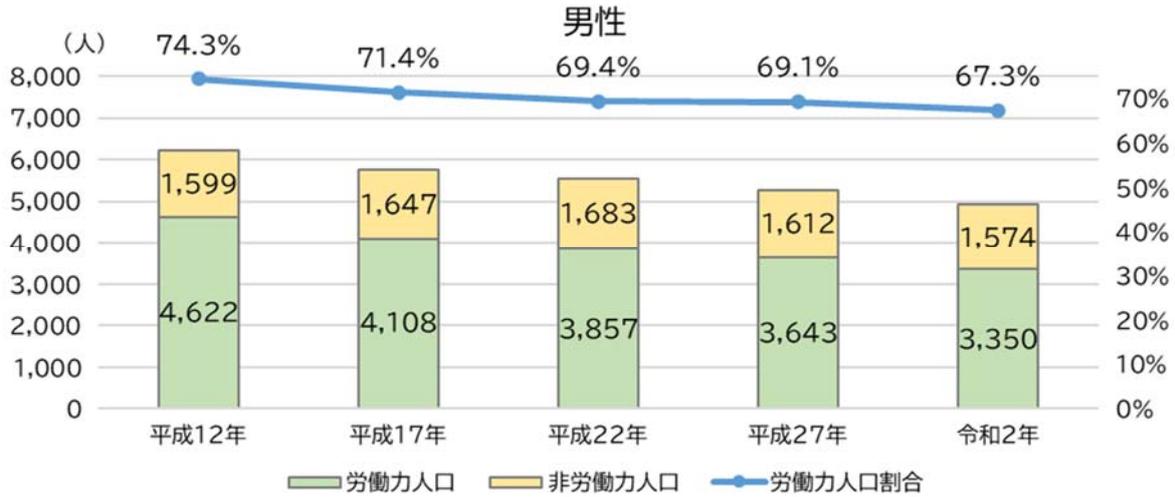
【町内総生産額の推移】



資料：岡山市町村民経済計算

労働力人口は男女ともに年々減少していますが、人口に占める労働力人口の割合では女性に比べて男性が特に高くなっています。男性の労働力人口割合は年々減少を続けていますが、女性は近年増加傾向にあります。

【労働力人口の推移】



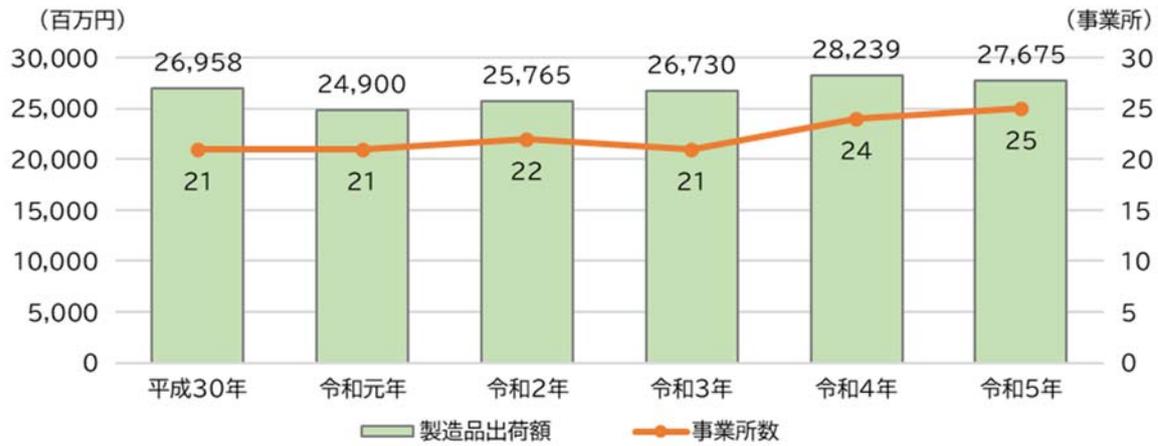
資料:国勢調査

※労働力人口割合は人口総数に対する労働力人口の割合

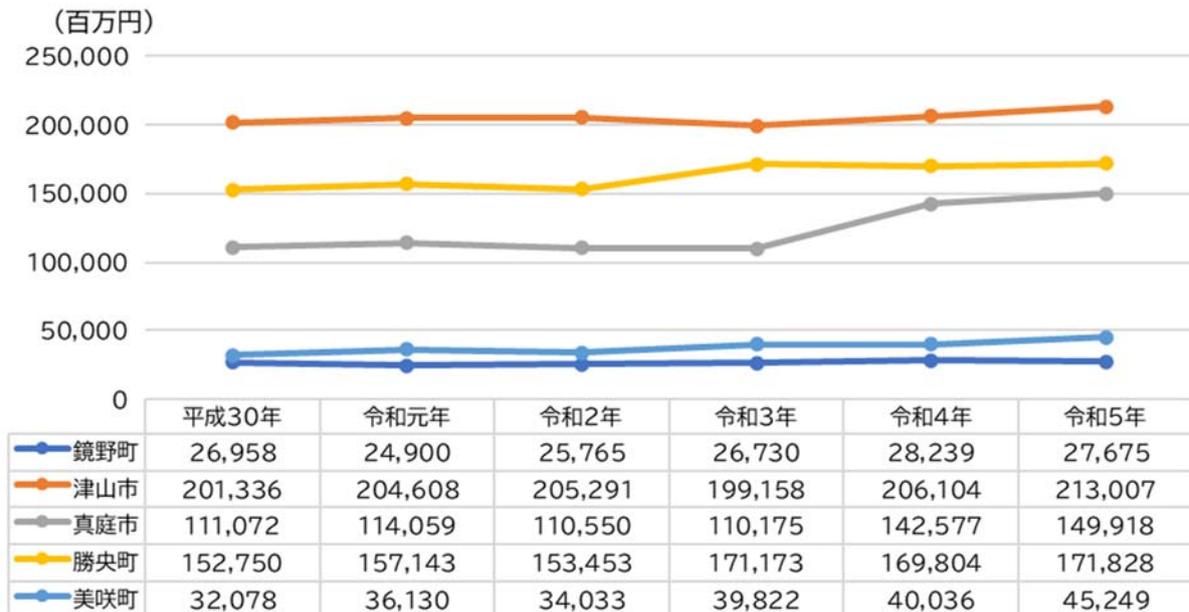
(2) 工業

本町の製造品出荷額は、事業所数とともに増加傾向で推移していましたが、令和5年は減少に転じました。近隣では勝央町や美咲町に比べて低くなっています。

【製造品出荷額、事業所数の推移】



【近隣自治体の製造品出荷額の推移】



資料：経済産業省「工業統計調査」、総務省「経済構造実態調査」、総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」

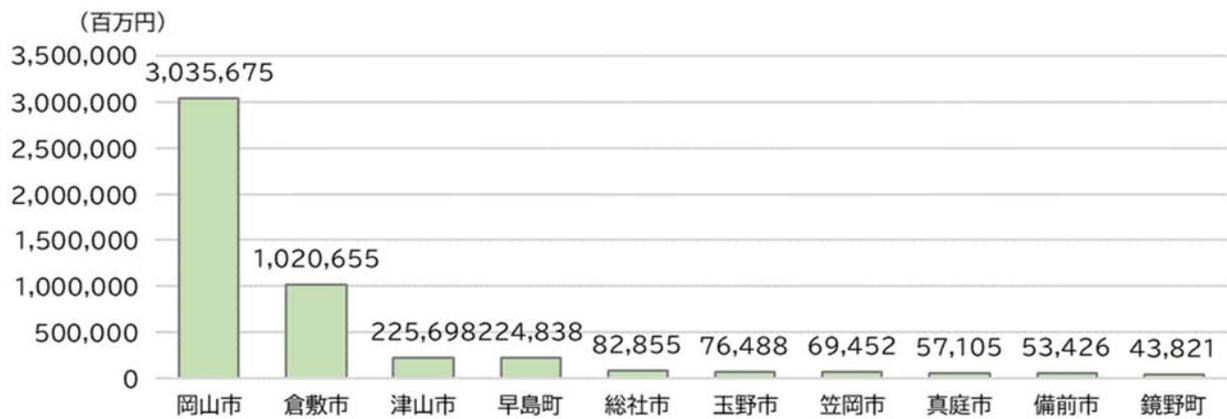
(3) 商業

令和3年における本町の年間商品販売額は438億2,100万円で、県内自治体では10番目の高水準となっています。

【年間商品販売額の推移】



【岡山県内年間商品販売額上位10自治体(R3)】



資料：経済産業省「経済センサス活動調査」、「商業統計調査」

(4) 農業

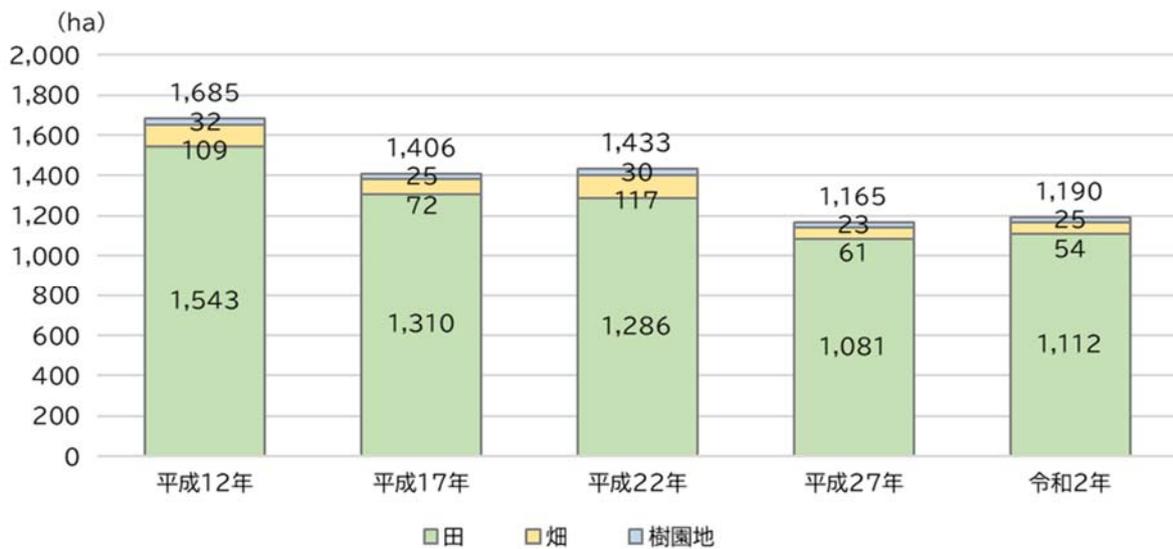
本町の農家総数、経営耕地面積はともに減少傾向で推移しています。令和2年の状況は、20年前（平成12年）と比べて農家総数が42%、経営耕地面積では29%減少しています。

【農家数の推移】



資料：農林業センサス

【経営耕地面積の推移】



資料：農林業センサス

(5) 林業

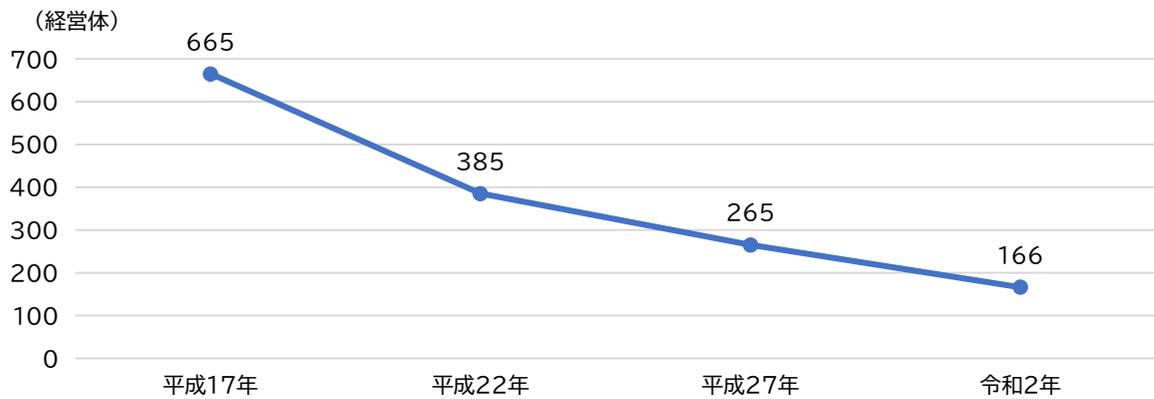
本町の林野面積は、平成30年から令和4年までに大きな変化はありませんが、林業経営体数の推移については、平成17年時点から大きく減少を続けています。

【林野面積の推移】



資料：岡山県統計年報

【林業経営体数の推移】



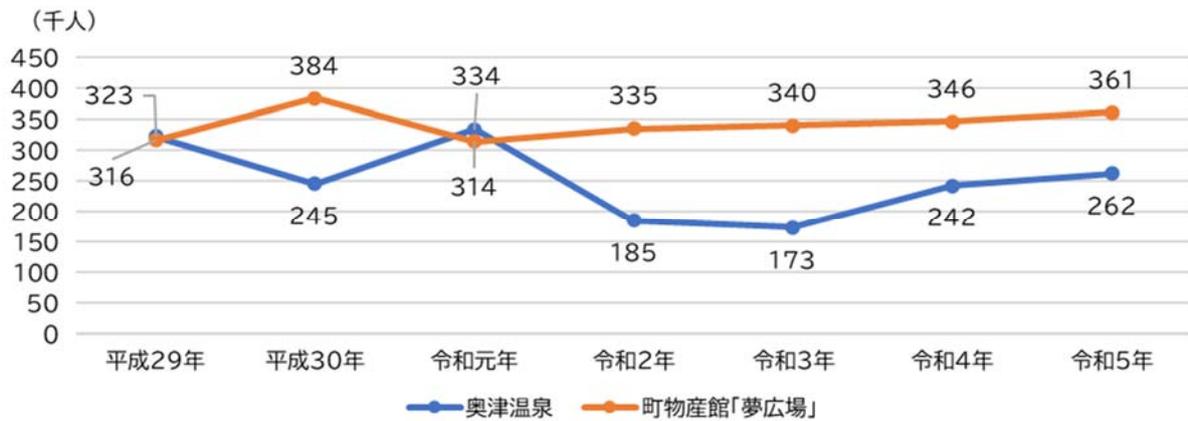
資料：農林業センサス

(6) 観光

奥津温泉への観光客数は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年に大きく減少し、現在では回復傾向がみられます。

町物産館「夢広場」では大きな減少はみられず、近年は緩やかな増加傾向となっています。

【主な観光地の観光客数の推移】



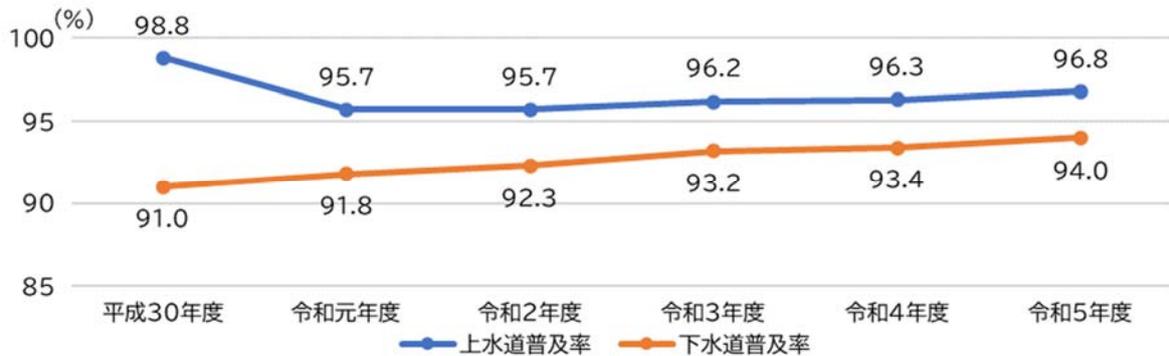
資料:岡山県観光客動態調査

6 生活環境

(1) 上下水道

上水道の普及率をみると、令和5年度は96.8%、下水道の普及率をみると、令和5年度は94.0%となっており、上昇傾向にあります。

【上水道、下水道の普及率の推移】



資料:岡山県 HP「岡山県水道の現況」「公共下水道整備状況」

(2) 消防・救急

本町における火災の発生件数の推移をみると、平成29年以降、10件前後で増減を繰り返しており、令和5年は5件と直前に比べて少なくなっています。

救急出動件数の推移をみると、津山圏域消防組合の6市町の合計数は平成29年以降では令和5年が最多の8,319件となりました。

【火災発生件数、救急出場件数の推移】

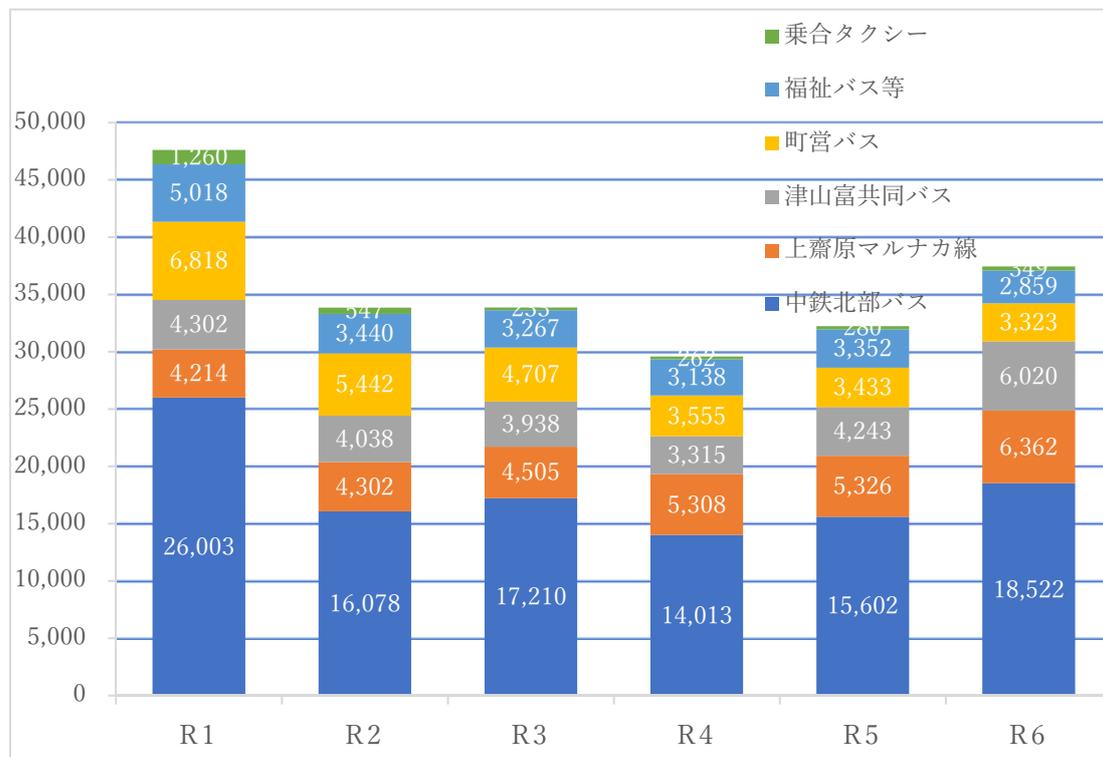


資料:岡山県統計年報、岡山県消防防災年報

(3) 公共交通

公共交通はほとんどの路線で減少を続けていますが、コロナ禍以降、利用者も増えている路線もあります。通学助成制度がより充実したものとなり津山へ向かうバスの利用者が増えたものと推測されます。

【事業者別バス利用者数の推移】



資料:鏡野町

(4) 交通安全

交通事故件数は、減少傾向で推移しています。

また、負傷者数も交通事故件数と同様の動きをみせています。死者数はおおむねゼロまたは1人となっています。

【交通事故件数の推移】

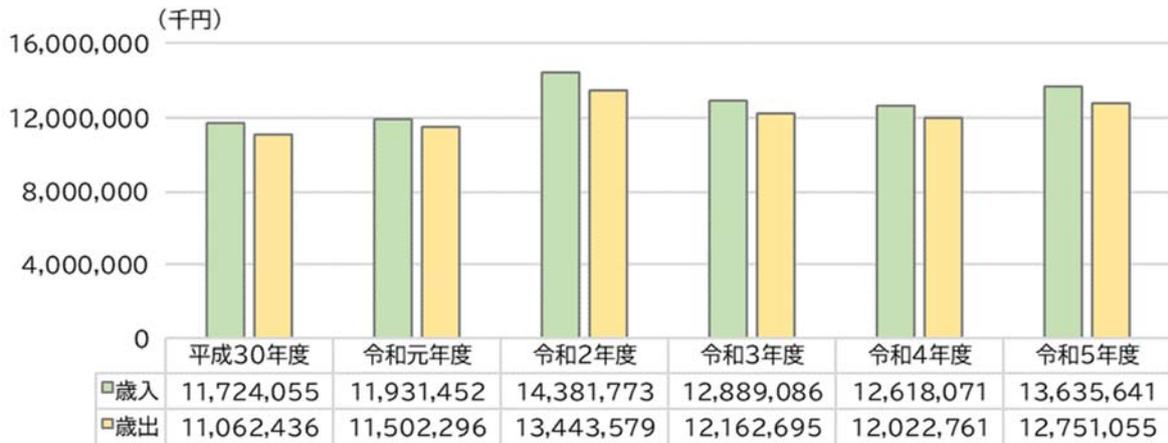


資料:岡山県統計年報

7 財政

歳入の状況を見ると、平成30年度以降は令和2年度をピークに減少傾向でしたが、令和5年度に再び増加しています。歳出も同じ動きをみせています。

【歳入・歳出の推移】



資料：鏡野町財政状況資料集

主な財政指標を全国平均と比較すると、財政力指数が低く、実質公債費比率、将来負担比率、人口 1000 人当たり職員数、人口 1 人当たり人件費・物件費などの決算額が高くなっています。

【主要財政指標比較(全国平均を 100 とした比較、令和 5 年)】



指数	鏡野町	和気町
財政力指数	60.4	66.7
経常収支比率	92.8	94.8
実質公債費比率	216.1	142.9
将来負担比率	687.3	300.0
人口 1000 人当たり職員数	185.2	149.9
人口1人あたり人件費・物件費などの決算額	222.1	148.5
ラスパイレス指数	97.0	95.4

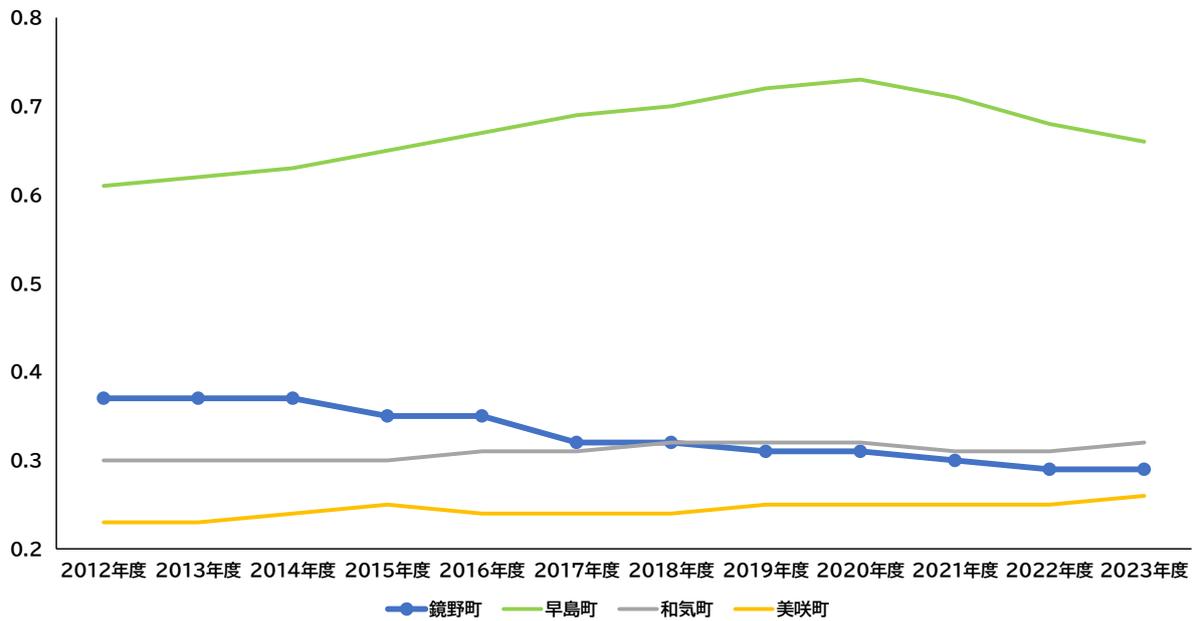
※比較対象の早島町、美咲町は、将来負担比率のデータが欠損しているため、グラフに入れていません。

経常収支比率	地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標で、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経費(経常的経費)に充当された一般財源の額が、地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源(経常一般財源)、減収補てん債特例分及び臨時財政対策債の合計額に占める割合。この指標は経常的経費に経常一般財源収入がどの程度充当されているかを見るものであり、比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表す。
実質公債費比率	当該地方公共団体の一般会計等が負担する元利償還金及び準元利償還金の標準財政規模を基本とした額(※)に対する比率。借入金(地方債)の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示す指標ともいえる。地方公共団体財政健全化法の実質公債費比率は、起債に協議を要する団体と許可を要する団体の判定に用いられる地方財政法の実質公債費比率と同じ。(※標準財政規模から元利償還金等に係る基準財政需要額算入額を控除した額。)
将来負担比率	地方公社や損失補償を行っている出資法人等に係るものも含め、当該地方公共団体の一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模を基本とした額(※)に対する比率。地方公共団体の一般会計等の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標ともいえる。(※標準財政規模から元利償還金等に係る基準財政需要額算入額を控除した額。)
人口あたり職員数	都道府県の場合は人口 10 万人、市町村(特別区を含む)の場合は人口千人あたりの職員数。
人口 1 人あたり人件費・物件費等の決算額	人口1人あたりの人件費、物件費及び維持補修費の合計。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
ラスパイレス指数	加重指数の一種で、重要度を基準時点(又は場)に求めるラスパイレス式計算方法による指数。ここでは、地方公務員の給与水準を表すものとして、一般に用いられている国家公務員行政職(一)職員の俸給を基準とする地方公務員一般行政職職員の給与の水準を表している。

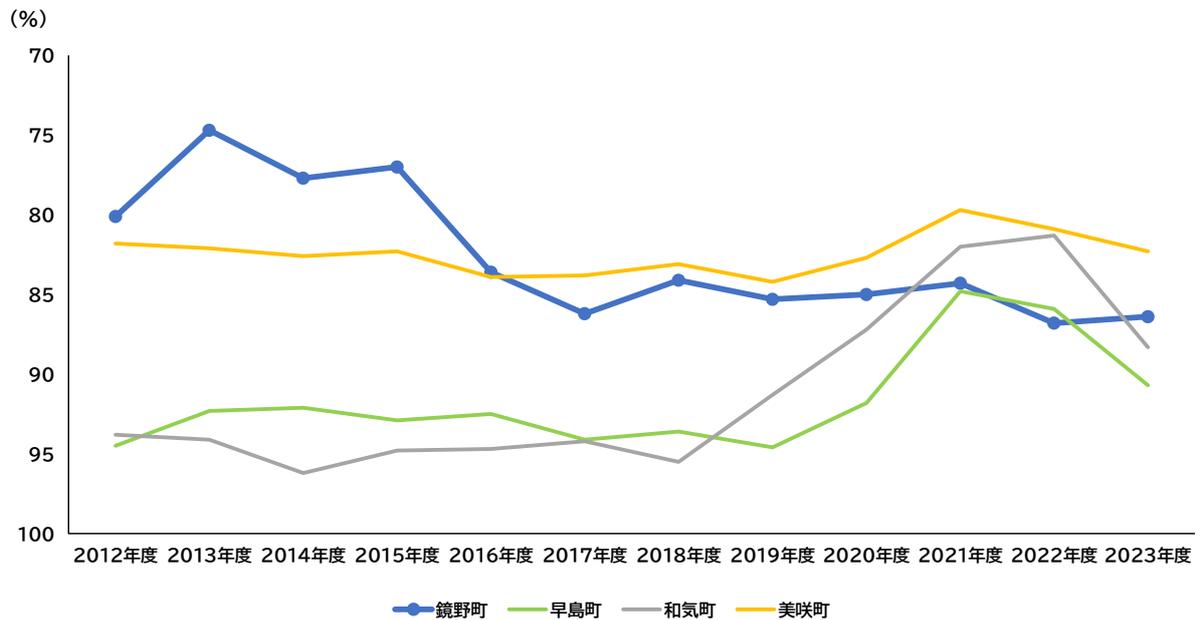
資料:RESAS(地域経済分析システム)

【自治体財政状況の推移(早島町、和気町、美咲町比較)】

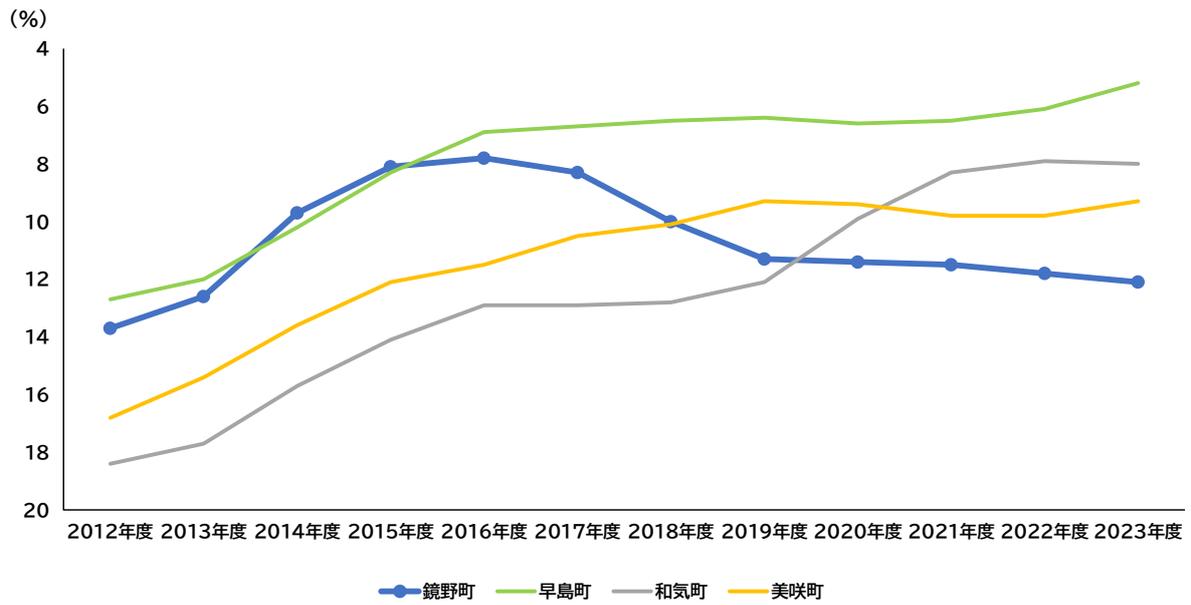
<財政力指数>



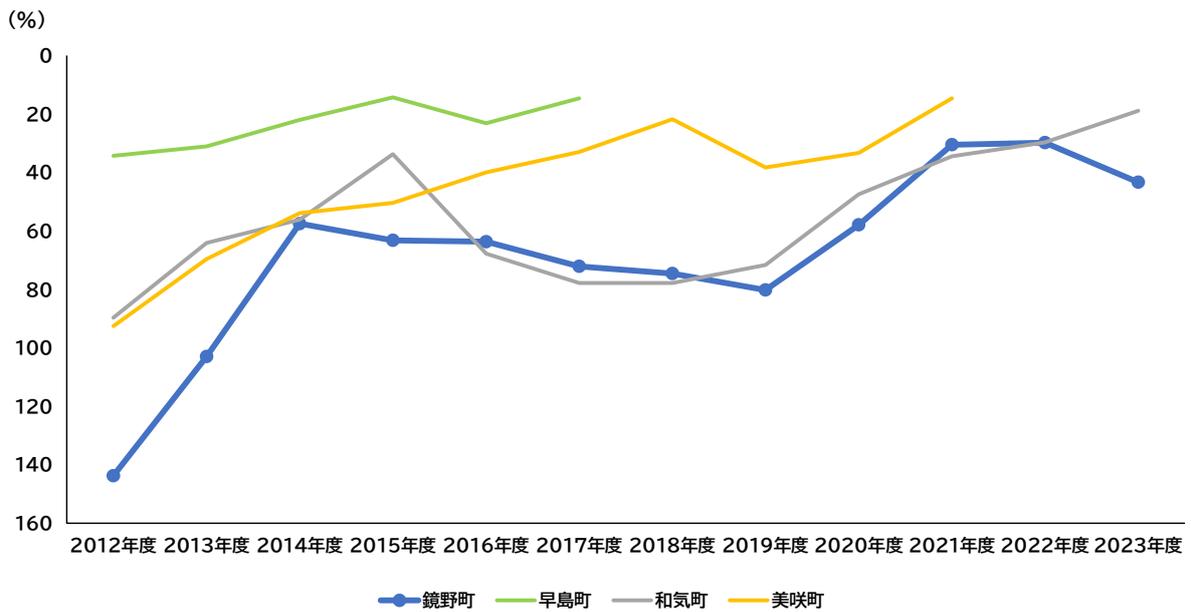
<経常収支比率>



<実質公債費比率>

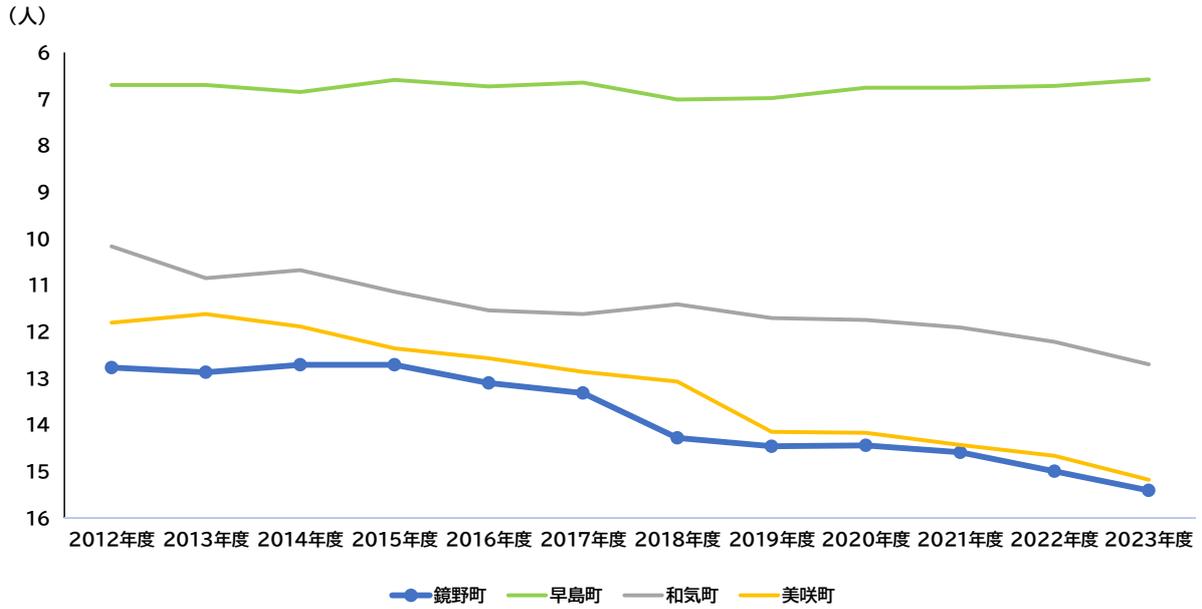


<将来負担比率>

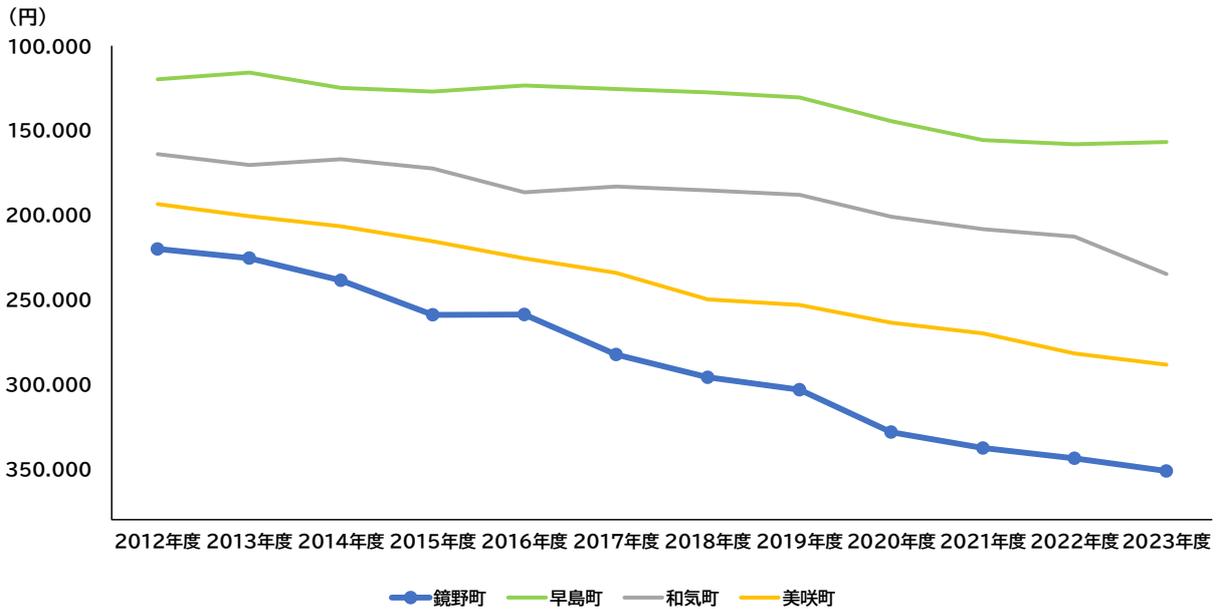


※早島町は 2018 年度以降、美咲町は 2022 年度以降、将来負担比率のデータが非公表となっています。

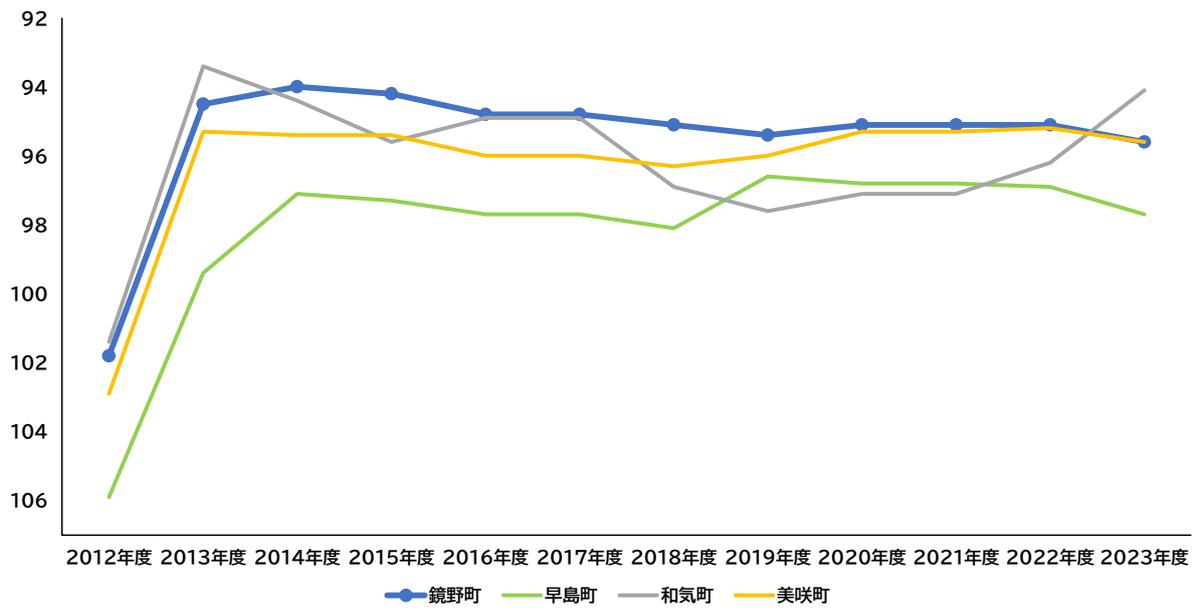
<人口あたり職員数>



<人口1人あたり人件費・物件費等の決算額>



<ラスパイレス指数>



資料:岡山県財政状況資料集